

# 岩手県北自動車(株)インタビュー(H28.5.26)

- 宮古港浄土ヶ浜地区で遊覧船事業を行っている岩手県北自動車(株)遊覧船事業部 佐々木事業部長に、事業内容や今後の事業展開等についてお伺いしました。
- 同社は、三陸ジオパークである宮古湾等を周遊する遊覧船の運航を行っています。

岩手県北自動車(株)遊覧船事業部  
事業部長 佐々木 司 氏(右)  
ガイド 横山 葵 氏(中央)



▲宮古港浄土ヶ浜地区位置図

～インタビュー要旨～ (聞き手:釜石港湾事務所長 小澤 敬二)

## Q:事業概要は?

弊社は、昭和35年(1960年)に観光船「浄土ヶ浜めぐり」の運航を開始後、浄土ヶ浜を基点とした遊覧船事業を展開しており、現在では、定期運航コースとして『浄土ヶ浜周遊コース(浄土ヶ浜一周:40分コース、6便/日)』を運航し、多くのお客様に三陸ジオパークの絶景ジオポイントやウミネコへの餌づけなどを楽しんで頂いております。

## Q:浄土ヶ浜遊覧船の魅力は?

遊覧船「第16陸中丸」で遊覧する浄土ヶ浜周遊コースは、約4千万年前の火成岩である流紋岩の白と松林の緑が見事な「浄土ヶ浜」(国名勝)を始め、高さ40m・幅7mの棒状の巨岩「ローソク岩」(国天然記念物)、二つの岩が仲良く並ぶ「夫婦岩」、上方に勢いよく潮を吹く「潮吹穴」(国天然記念物)など、ジオポイントに指定された景観を洋上よりご覧頂けます。

また、ガイドがお客様の近くで会話をしながら景観やジオパーク、さらには、震災当時の遊覧船について丁寧に説明するのも魅力の1つです。

## Q:基本的な営業戦略は?

団体客の取り込みが主になります。募集型のツアーや修学旅行などを取り扱うエージェントに対し、当地域の宿泊とセットになるような広域的旅行の提案営業を重点的に行っています。もちろん個人客を取り込むための各種企画も行き、ホームページやSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などを活用し、日々欠かさず情報発信しています。



▲津波で被災した「第15陸中丸」



▲浄土ヶ浜



▲就航予定フェリー「シルバークイーン」  
(H27.11.15 試験寄港の様子)

#### Q:東日本大震災前後での変化は？

大津波により、弊社が保有していた遊覧船3隻の内2隻は津波で被災し、解体され廃棄処分となりました。事業再開迄には、様々な苦労がありましたが、会社一丸となり三陸沿岸の観光の灯を消してはいけないという強い思いをもって取り組み、震災発生4ヶ月後の平成23年7月に残った1隻で運航を再開することができました。

震災前は、9便/日の定期便が3月半ばから11月末まで毎日運航しておりましたが、1隻での運航のため再開直後は4便/日から始まり、現在は、6便/日の運航まで戻ってきております。震災後は、震災復興応援ツアーという形で、全国から多くのお客様にお越し頂き、乗組員にも温かい声をかけて頂いたことに、本当に感謝をしております。

#### Q:これからの事業展開は？

最近では、震災から5年が経過し、震災復興応援ツアーの利用客も落ち着いてきている状況です。

一方で、震災後、多くのクルーズ客船が宮古港に寄港しておりますし、平成30年6月には宮古港と室蘭港を結ぶフェリー航路が就航予定であり、観光客の増大が見込まれます。特にフェリー就航は、大きなチャンスと捉えており、既存のバスとフェリーで北海道・本州間を周遊する商品におけるルートの一部に組み込むなどいろいろな可能性があるかと考えております。また、弊社の関連会社はホテル業やカーシェアリング事業も行っていますので、交流人口拡大のために、フェリーやバスと連携し、いろいろな取組ができると考えています。地域振興に寄与するためにも、クルーズ客船増加やフェリー就航のインパクトを地域経済に取り込む仕掛けを検討していきたいと考えております。

佐々木事業部長様、お忙しいところインタビューさせて頂き、ありがとうございました！